

大学共同利用機関を中心とした共同利用・共同研究体制の機能強化に向けた意見の概要(案)

資料1-2
科学技術・学術審議会学術分科会
研究環境基盤部会（第120回）R7.1.20

令和7年1月 研究環境基盤部会

国際卓越研究大学制度や地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)等によりトップ層や上位に続く層に位置する大学の研究力強化に向けた取組が行われているが、それらの大学以外にも広く意欲・能力がある研究者が所属している。

このような中、大学共同利用機関や同様の機能を有する共同利用・共同研究拠点は、全国の大学に点在する意欲・能力ある研究者が最先端の研究を行うことができる場として、また、組織の枠を超えて国内外の研究者をつなぐことにより「新しい知」を創出する場として重要な役割を担っており、研究活動・研究設備が高度化・複雑化する中で、組織・分野を超えた国際的・学際的な研究ネットワークのハブとしての機能をより一層強化することが求められる。

例えば以下のような機能の強化が必要と考えられるが、今後の機能強化の方向性及びそれを実現するための具体的な方策については、第7期科学技術・イノベーション基本計画に向けた文部科学省における検討や次期の研究環境基盤部会における大学共同利用機関の検証を通じた今後の在り方の検討等において、引き続き議論を深めることが望まれる。

〈機能強化が求められる事項〉

研究環境の充実・高度化

- ✓ 先端的な研究を行うための中規模研究設備等の基盤の更新
- ✓ 技術職員やURA・産学官連携コーディネーター等の研究マネジメント人材による研究支援体制の充実
- ✓ グローバル化の推進等による国際競争力の強化

研究人材の育成・輩出

- ✓ 若手研究者の育成や支援に関する取組の充実
- ✓ 企業等とも連携した技術職員の育成・輩出のハブ機能の強化
- ✓ 総合研究大学院大学等と協働による博士後期課程等の学生の早期からの戦略的育成

新しい学際領域の開拓

- ✓ 学術研究の動向を踏まえた、新しい学際領域を開拓するための仕組みの構築を主導するハブ機能の強化

ハブ機関としての体制の充実

- ✓ 各機関における公募情報の集約化等を通じたより広い分野の研究者への訴求
- ✓ 法人内の分野が異なる機関間の連携促進や4法人と総合研究大学院大学で構成されるアライアンスの効果的な活用